

新春文芸

短歌

新春に詠む短歌

新春の浦のさざ波ひかり満ち紫峰に霞む村幸えり

震災の復興をお祈りすると共に、平和の有難さを感じ、私たちの住む郷土も人も皆幸せでありますようにと念じつつ。

荒井 洋子

初詣で道ゆく子らのはしゃぐ声 不思議な力をもらえたような

いつの世も子どもたちの元気な声は大人たちを励ましてくれる。今年こそ、平安で子どもたちに幸あれと願わずにはいられない。

井坂 久子

満ち潮に岩場の藻はゆれ波ひかる被災せし地に今日の陽は昇る

自然はこよなく美しいけれども恐ろしいものでもあり、震災、大津波、原発と被災された方々の穏やかな日々をお祈りいたします。

佐藤 哲子

聞こえる朝のあいさつさやかなり行く町並みに日は射し昇る

大きな災害に苦しめられた日本列島。希望と明るさを取り戻したいものである。

柴岡 直治

志高く持たんと古希なる日 アンチエイジング五十歳とまたも言われん

還暦よりアンチエイジングを揚げて、人より「五十歳ですか」なんていわれて気分よくしている。今年もいい年でありますように。

三浦清次郎

架空なる十二支のたつの不気味さよ今年の平安うるこに祈る

実物はおろか写真さえ見たことのない龍ですが、十二支の中でもなんと威厳がある。今年は平安でありますように。

山口 あさ

定年後の夫発掘に精を出し土の匂いの作業着を脱ぐ

夫は膝を痛んでいたが、定年と同時に手術をし、それから十年近くも大好きな発掘の仕事に精を出している。今年も頑張れますように。

海老原 鮎子

俳句

新春に詠む俳句

初春の日光連山真白なり

遠方に、雪の日光連山が輝いて見える。大自然の素晴らしさ。でも、昨年の震災の恐怖は忘れない。今年は穏やかでありますように。

相澤アヤ子

夫だけの旨酒となる三が日

女性を除夜の鐘を聞きながらお節を作り、正月に来る子どもや孫たちのために忙しい。男性は元日のお屠蘇から始まり、呑みでばかり。

佐藤てつ子

双眸に捉えらえたる初筑波

二つ嶺は「男体」、「女体」の名を持ち、古事記には「嬬歌」の記がある。年間を通して人の訪れる山。新年を祝い仰ぐ筑波山。

高田 智子

初空に列島の松こぞり立つ

花や水から受ける恩恵は計り知れない。心揺さぶられる姿や香り。松の成長はゆっくりと。その力強さに感動させられる。

藤川 祐子

子のあとに蹤いてゆくなり初詣

子の小さい内は、親が引き連れてどこへでも行ったもの。しかし、いつの間にかやら世代交代、子が親の手を引いて歩くようになる。

堀越喜代子

餅花や路地の駄菓子屋椅子を置き

餅花が飾られている駄菓子屋には、椅子が子どもたちを待っている。ここに集まっの楽しいひととき。豊かな心が育まれてゆく。

宮本 満子

仮名文字の流れの先の初御空

真っ白な紙と対峙している時間が好きで仮名文字を書く。お正月の青空に守られ、励まされ、今年も健康で無心に書きたい。

山根 延子

水仙の匂いただよう背筋かな

玄關に活けられた水仙。お正月の引き締まった雰囲気があったよう。今年も頑張らなくては。淑気の中、思わず背筋が伸びる。

吉田 博子

新しいのち加わり孫六人 すこやかなれと禱る初春

昨年十一月に、私たちにとって六人目の孫が誕生し、希望の光になりました。今年も穏やかな一年でありますように。

塚原 洋子

四季桜・十月桜と人の言う淡きくれない冬空に咲く

まだ黄葉が少し残っている十月下旬、市役所のバス停に桜の花が咲き出した。震災の後も見事な花が。やはり桜は心が和む。

金丸 玉貴

開きたる朝顔に似て乙戸沼の噴水三つ雲を引き寄す

雲がゆっくり動いて時が止まったような午後ひととき。乙戸沼を浄化するための噴水は人の心も浄化してくれるようである。

宇留野むつみ

この夏のきびしき暑さ耐えぬきて咲く玉簾小さく白し

今年の夏は余りに暑かったので、葉が萎縮してしまい諦めていたが、後れながらも咲き揃った白い花を見て一層いとおしく思いました。

菊地 公代

着のままの夜は続きぬ地震止むも余震のありて恐れの去らず

少年の日、空襲に怯え夜も着のままであったことを思い出す。今年こそ戦争も災害もない平和な年であることを願う。

松崎 國男

地の底にあつきマグマを抱けるや筑波の山の梅蕾みたり

山の巨岩と早咲きの梅の取り合わせは美しい。生物種が数多の地球上に、人間として生まれたのは奇跡だ。万物の平安を祈る。

福原 安崇

まっすぐに背すじ伸ばして並びたき古稀の記念の集合写真

古稀を祝うクラス会が開かれました。お互いに老けたなと思いつつ、記念写真に背を伸ばし並びました。

平澤 良子

大年の信号の灯揺るる「赤と青」人間としてまたひとつ年をとる

除夜の鐘の響く歩道で信号待ちの時ふと見れば灯が揺れて見えた。人間として守るもの、そして取り捨てたもの。繰り返しの中でまた年をとる。

宮本 唯男

青空にふわふわ雲の広がりにて韻律含む絵画のごとく

晴れた空に浮かぶ白い雲は、キャンバスに画いた様にこころなし音まで聞こえそう。自然界は日常にあつて、人のこころを癒してくれる。

井上 秀子

川柳

新春に詠む川柳



復興の祈りもこめて祝い膳

祝い膳を囲みながら、被災者のことを思いやり、元気に新年を迎えられたことに感謝し、一年の安寧を祈る。

石引たか女

振袖の若さ華やぐ初詣

老若男女で賑わう初詣に、ひときわ目立つ振袖の華やかさに、目をうばわれる。新しい年の楽しい予感。

長井まさこ

欲張りな夢を綴った初日記

年頭に今年こそはと夢がたくさんある。一つでも叶えられればいいのですが、思うように行かないのが夢です。

谷藤美智子

天竜の天駆ける春待つ果報

昨年は未曾有の天災、そして円高と厄災続き。でも明けない夜はありません。強運の竜に期待しています。

富永 柳道

大空へ男度胸の梯子乗り

大震災以来うつむき勝ちな心に、新春出初式の梯子乗りのように、大きく度胸満点で羽ばたきたい。

田邊 余市

玉砂利を踏んで願いの鈴を振る

初詣に行き、鈴を鳴らし家内安全・無病息災を願う。賽銭の割には欲張った願をいつもして帰る。

太田 鳴子

初撮は家族の笑顔はいチーズ

初詣をすませ、屠蘇を酌み交しての団らん、和気藹々とカメラに収まる笑顔。今年も笑顔を絶やさず送りたい。

関口 進吾

初詣絵馬をはみ出す願いごと

初詣には毎年絵馬を奉納する。今年は大震災と原発事故の願いごとが増え、個人の願いごとが割愛された。

近藤 稔夫